



水道はいつ、だれが作ったの

1619年に各家庭に水が送られた

都市ができ、多くの人々が生活するようになると、大量の水が必要となります。そこで遠くの水源地から都市に水を引く施設は、早くから作られましたが、それは水路であり、今日のような水道ではありませんでした。

いわゆる水道らしいものができたのは、1235年、イギリスのロンドンで、鉛管による給水が行われましたが、これも水を市内に送り込むためのものでした。

水道ができて、それぞれの家庭に水が送られるようになったのは、1619年です。ロンドンで水道会社ができただけで、しかし、だれが水道のしくみを考えたかは、わかりません。

衛生面からも水道の必要性が

水道ができて、大量の水が各家庭に送られるようになると、水質が大切になります。そのため、水をろかして、浄水する方法が考えられました。

当時はまだ危険な細菌が多く、コレラやチフスなどの感染症が流行することもあったのですが、ろかした水を飲んでいていた地区の人々は、これらの病気にかかることが少なかったため、細菌と水道の浄化について実験したところ、ろかを行うことによって細菌を防ぐことができることがわかりました。

こうして、感染症から体を守るといって衛生面からも、水道の必要性がわかり、水道がヨーロッパ各地に広まっていったのです。（監修・保岡 孝之）

